

2020年12月期

# 決算説明資料

---

2021年2月25日

 **木徳神糧株式会社**  
証券コード：2700



# 2020年12月期 連結業績の概況

---

# 決算ハイライト (P / L)

## 減収・減益

単位：百万円

	前期 (2019年)	当期 (2020年)	増減額	前年同期比
売上高	117,612	107,596	△ 10,016	91.5%
売上総利益	5,561	5,207	△ 354	93.6%
売上比	4.7%	4.8%		
販売費および 一般管理費	5,484	5,250	△ 234	95.7%
売上比	4.7%	4.9%		
営業利益または 営業損失	76	△ 42	△ 118	—
売上比	0.1%	—		

# 決算ハイライト (P / L)

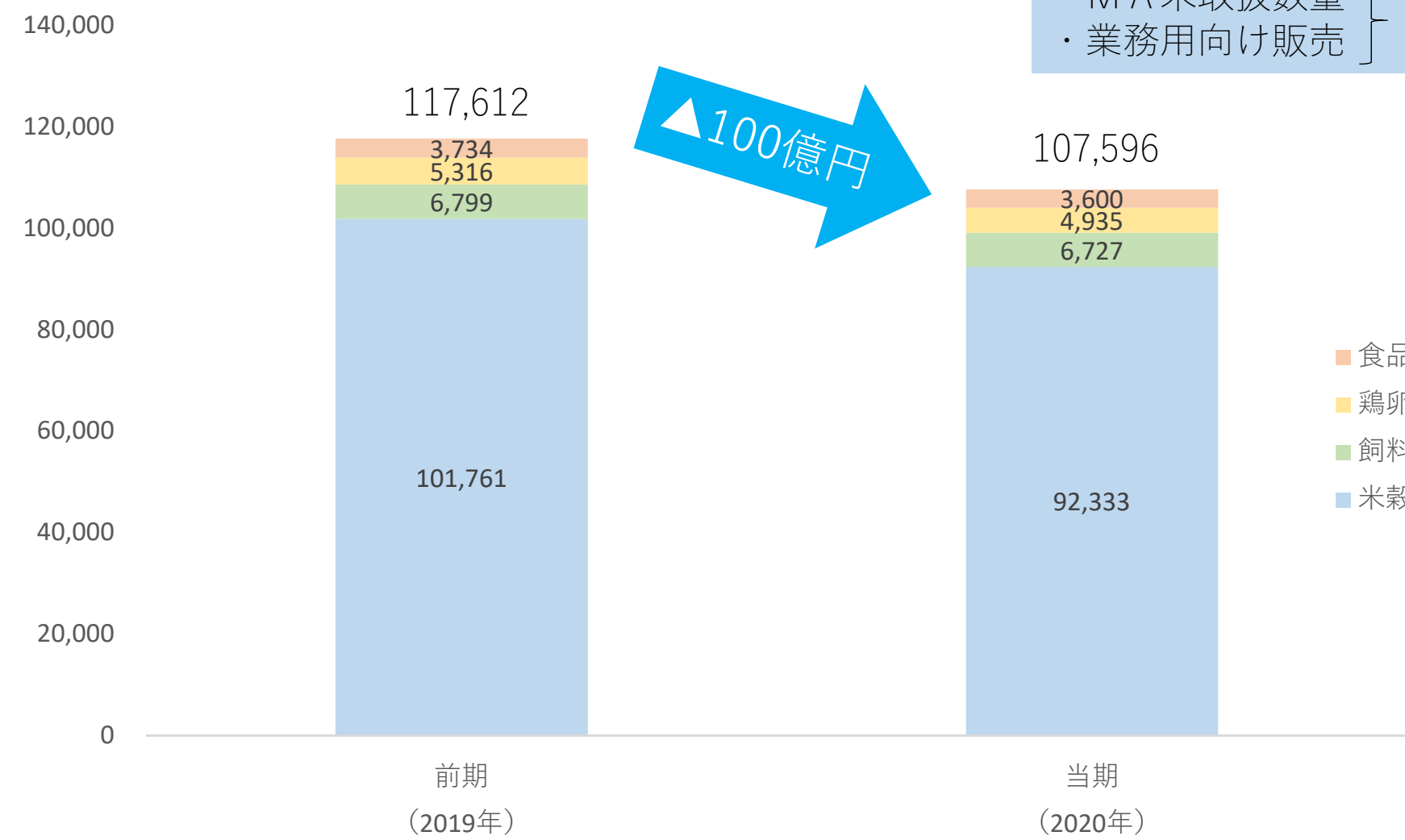
単位：百万円

	前期 (2019年)	当期 (2020年)	増減額	前年同期比
営業利益	76	△ 42	△ 118	—
売上比	0.1%	—		
経常利益	624	81	△ 543	13.0%
東日本産業の 持分法適用関連会社化	0.5%	0.1%		
特別損益	△ 21	140	161	—
売上比	—	0.1%		
台湾木徳資産売却益 投資有価証券売却益				
親会社株主に帰属 する当期純利益	676	62	△ 614	9.2%
売上比	0.6%	0.1%		



# 売上高（セグメント別）

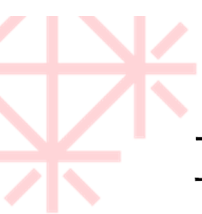
単位：百万円



▲100億円

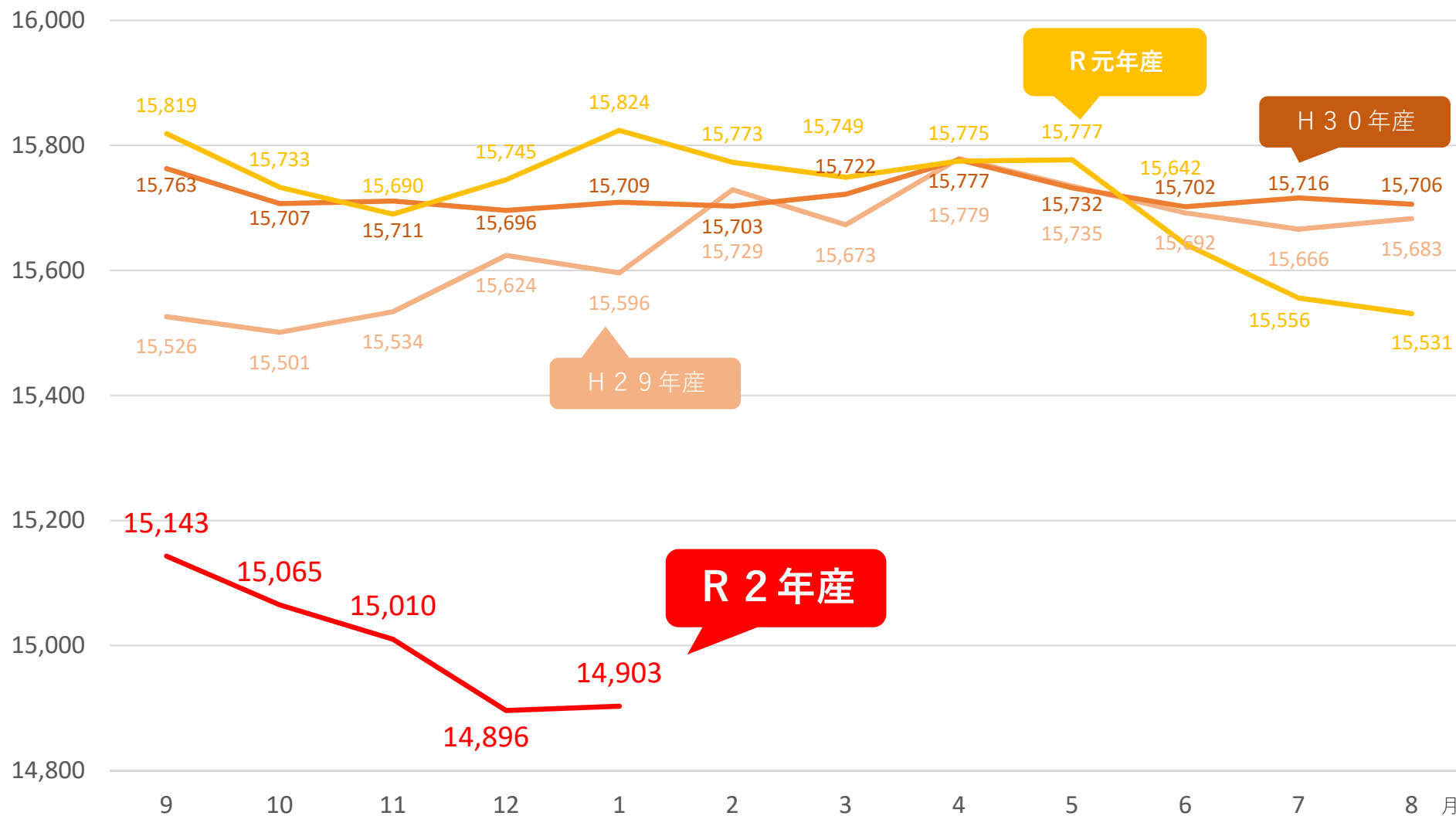
米穀事業  
・ M A 米取扱数量 } 大幅減少  
・ 業務用向け販売 }

- 食品事業
- 鶏卵事業
- 飼料事業
- 米穀事業



# コメの相対取引価格の推移

単位：円/60kg

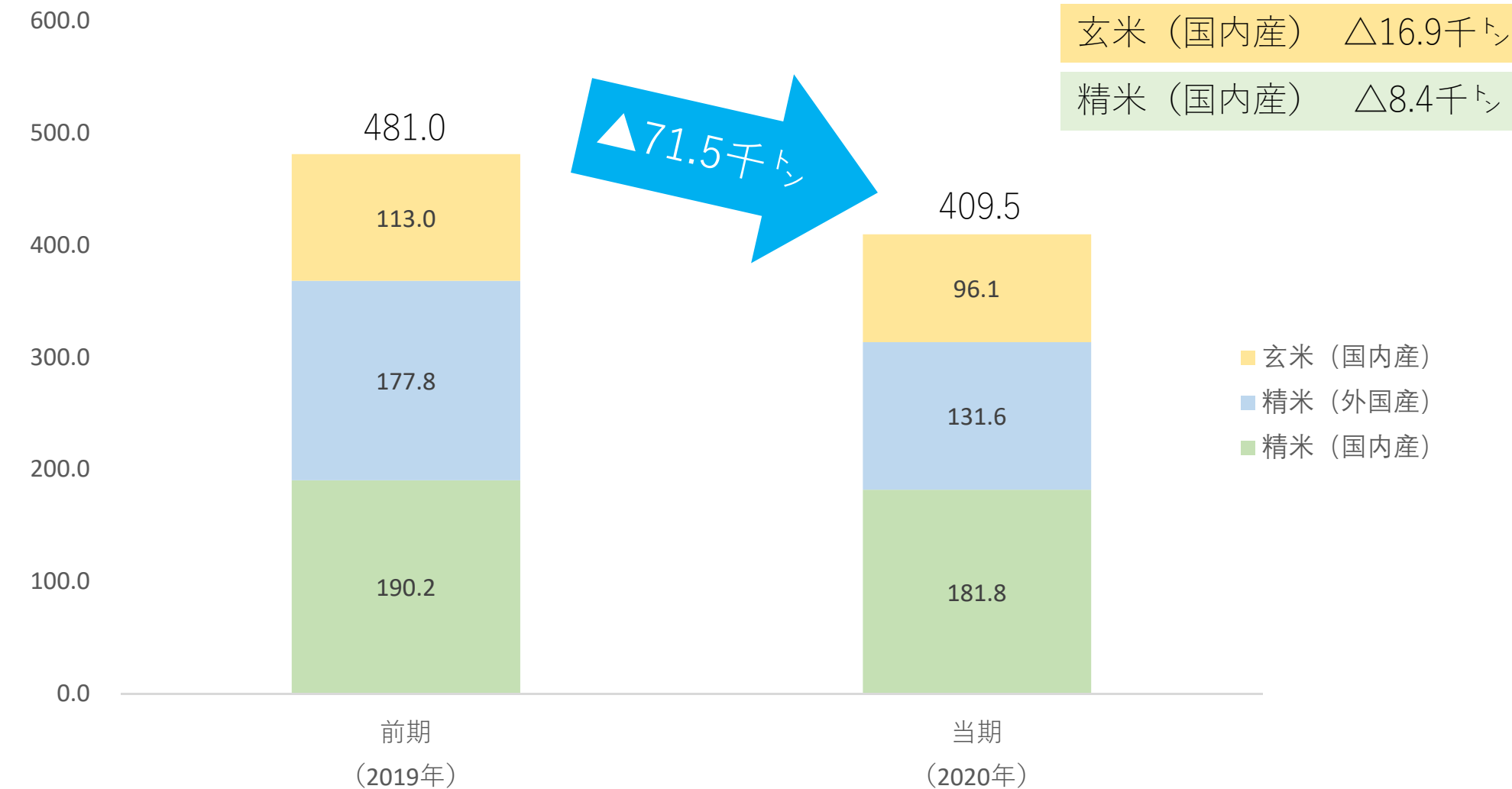


注：1. 価格には、運賃、包装代、消費税相当額が含まれている。

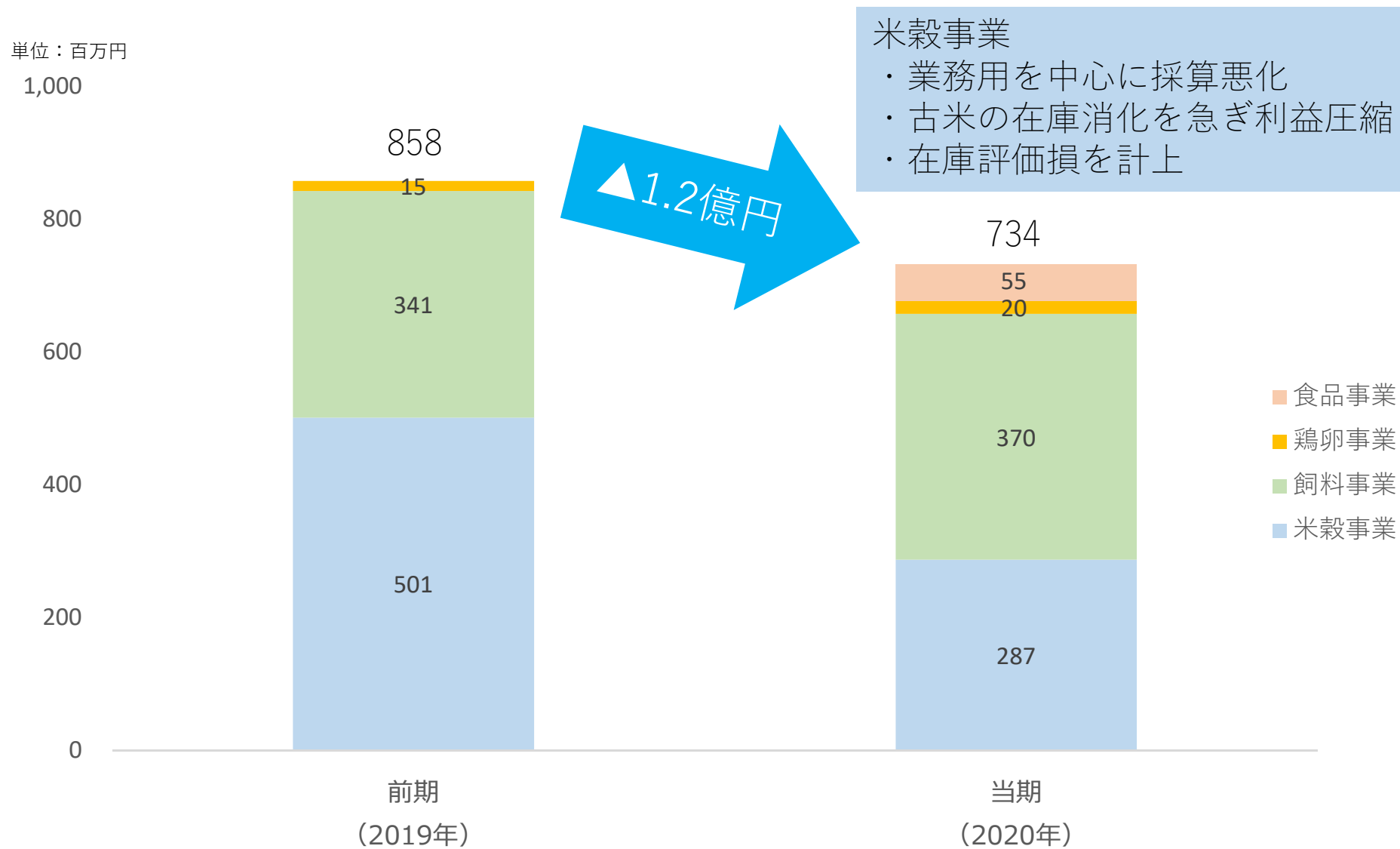
2. 相対取引価格は全銘柄平均価格であり、産地銘柄ごとの前年産検査数量ウエイトで加重平均した価格である。

# 販売数量（米穀事業）

単位：千トン



# 営業利益（セグメント別）

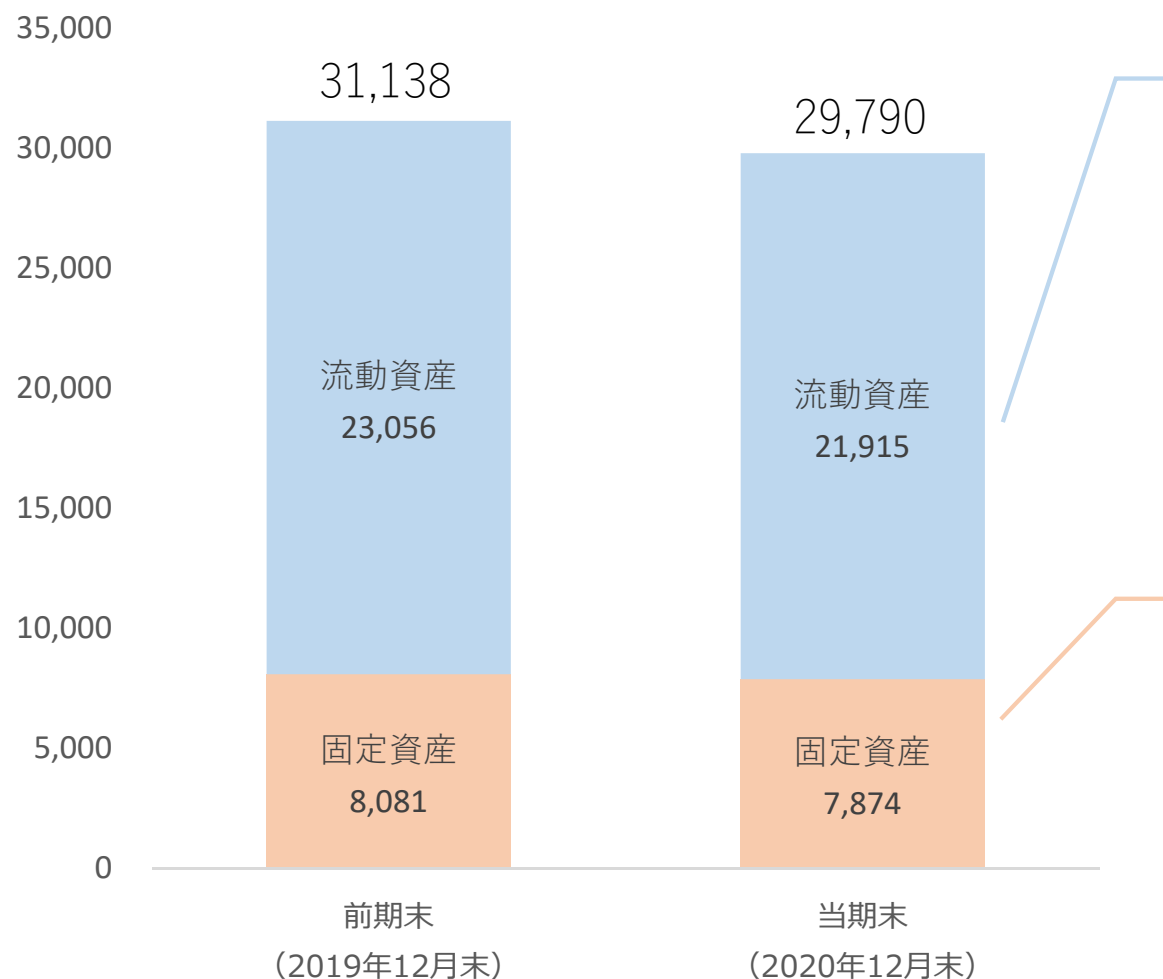




# 資産、負債及び純資産の状況（1）

## 【資産の部】

単位：百万円

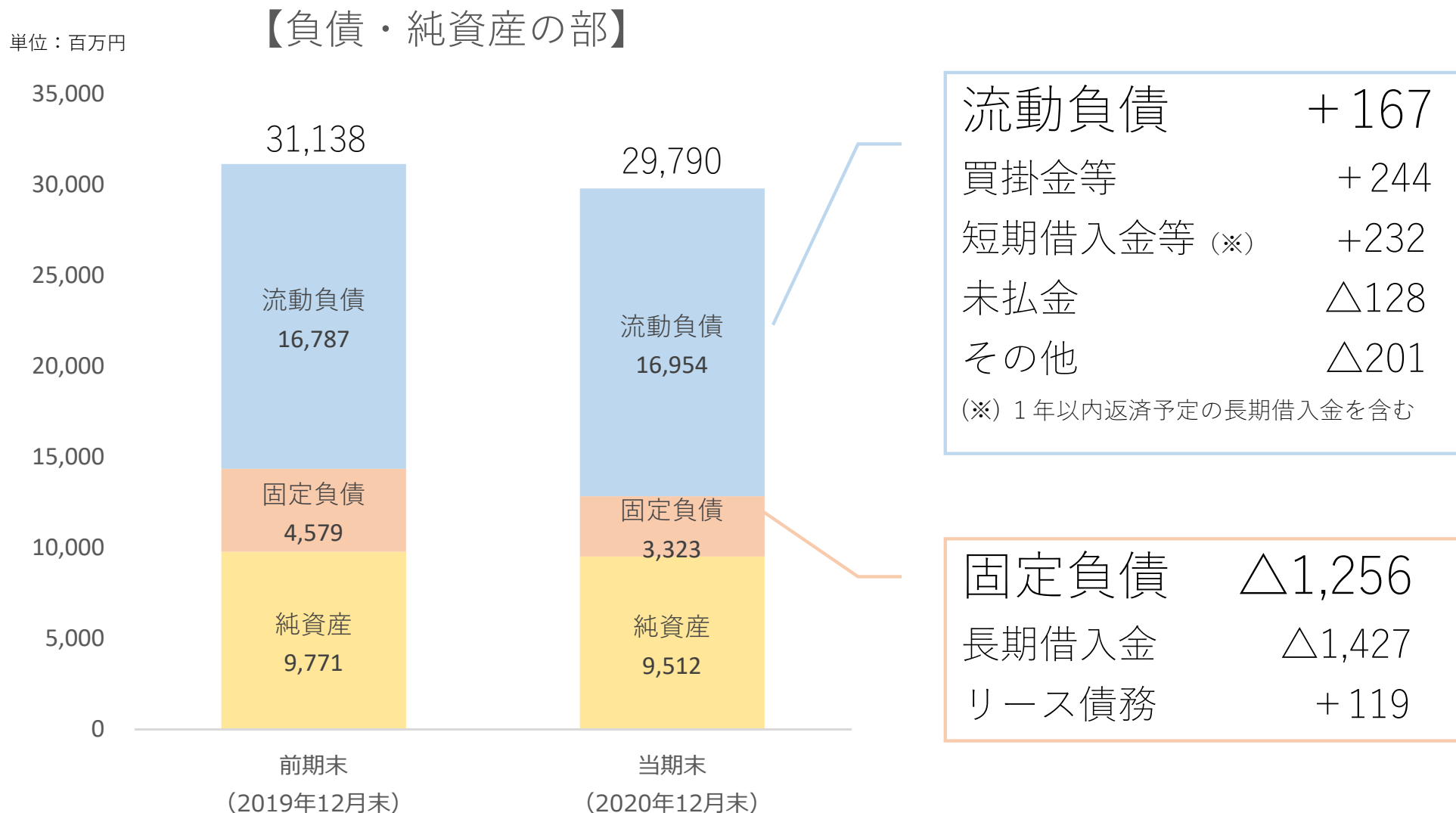


流動資産	△1,141
売掛金等	△976
現金・預金	△723
棚卸資産	△557
前渡金 (※)	+1,096

(※) 要因は主にミニマム・アクセス米に係る取引によるもの

固定資産	△207
投資有価証券	△240
リース資産	+152

# 資産、負債及び純資産の状況（2）





# 決算ハイライト (B / S)

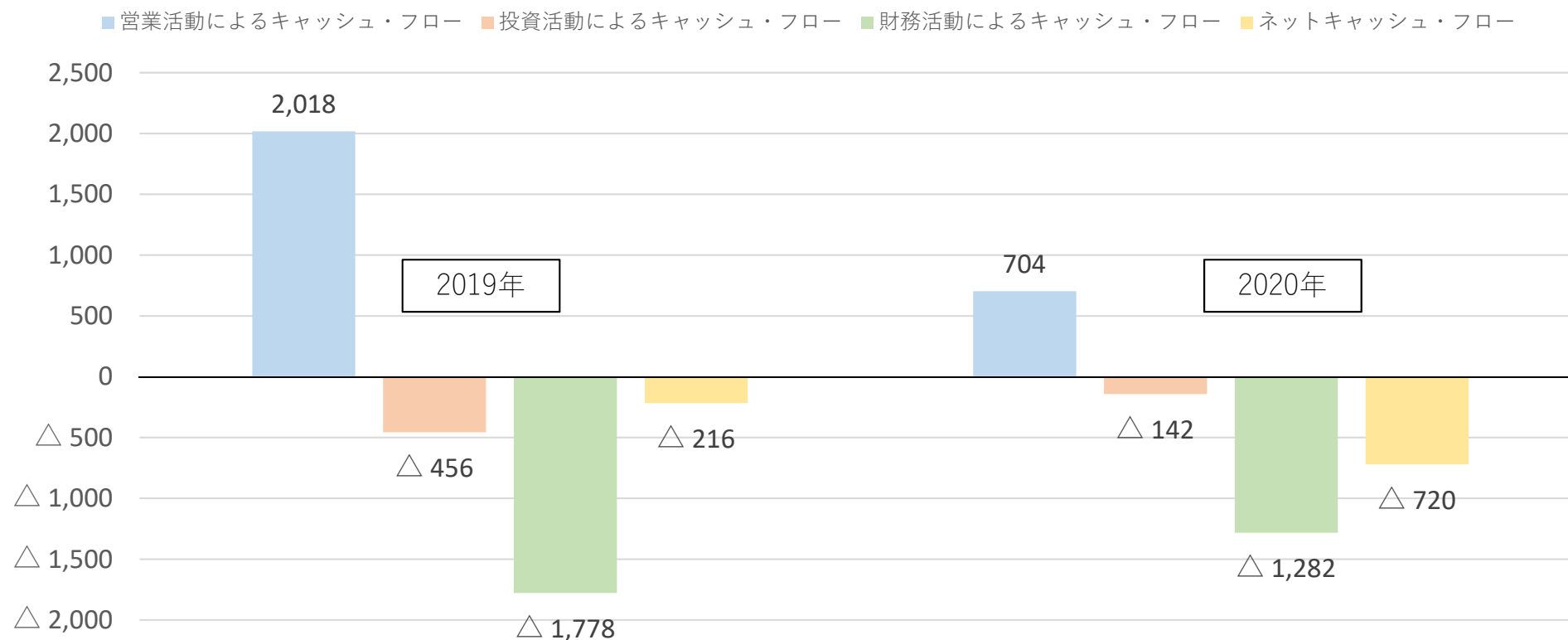
	前期末 (2019年12月末)	当期末 (2020年12月末)	増減額
総資産 (百万円)	31,138	29,790	△1,347
純資産 (百万円)	9,771	9,512	△258
自己資本比率	31.0%	31.5%	+ 0.5
1株当たり純資産 (円)	5,948.41	5,792.16	△156.25


(参考) 自己資本：2019年12月末 9,639百万円、2020年12月末 9,385百万円。

# 決算ハイライト (C/F)

単位：百万円

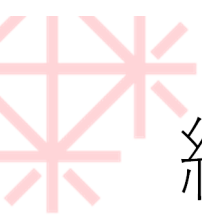
	前期 (2019年)	当期 (2020年)	増減額
営業活動によるキャッシュ・フロー	2,018	704	△1,314
投資活動によるキャッシュ・フロー	△456	△142	+314
財務活動によるキャッシュ・フロー	△1,778	△1,282	+496





# 經營戰略

---



## 経営理念

コメビジネスを軸に世界中の消費者に  
コメとコメ関連食品の素晴らしさを発信し、  
健康で楽しいライフスタイルの実現をサポートします。

# 当社を取り巻く経営環境

## 継続的な要因

- 人口の減少および少子高齢化による消費量の減少
- 食の多様化によるコメ食の減少

## 新型コロナウイルス感染拡大による要因

- 外出自粛および緊急事態宣言発令による外食需要の縮小
- 中食（宅配やテイクアウト）、内食（家庭内調理）需要の拡大



# 環境変化へ対応

# 新型コロナウイルスの感染拡大

## ●当社への影響と取り組み

### ■感染の拡大防止対策による需要の落ち込み

- 外出自粛、休業要請、イベント中止、インバウンド需要の激減等による中・外食需要の急減
- 雇用・所得の先行きへの不安から消費者の節約志向が強く価格競争台頭

### ■巣ごもり消費や防災意識をターゲットにした取り組み

- 家庭内調理「内食」の充実やテイクアウト需要への対応
- 備蓄ニーズへの対応、ローリングストックの推進
- オンラインショップを開設



内食とテイクアウト需要への対応  
タイ香り米パックご飯とキッチンカー



家庭内備蓄用途をコンセプトにした  
「ストックライス」



インターネット通販サイト  
「KOMETS」の運用開始

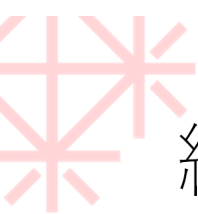


## 米穀事業(国内)の構造改革

- ・仕入構造改革の推進
- ・コストの削減による競争力強化
- ・提案営業実践の強化

## 新規事業・新商品開発の本格化

- ・海外市場におけるチャレンジ
- ・連携強化による開発の充実



# 経営戦略（米穀事業（国内）の構造改革①）

## ●仕入構造改革の推進

### ■業務用向け需給ミスマッチ解消への対応強化

- ▶ エリア毎に地産地消に適した多収穫米品種の拡大
- ▶ 生産者と実需を結ぶ長期的取り組みとして、にじのきらめき・つきあかり等、多収・良食味品種の普及促進  
(2020年 6,000ト→2021年計画 8,000ト)

### ■家庭用向け商品の産地精米によるコストダウン

- ▶ 産地工場との資本提携を進め、自社工場と同水準の品質を確保
- ▶ 営業と製造との協力でアイテムを集約し効率化

### ■東日本農産への出資による調達強化

- 業務用へ国産米を使用推進、加工用原料米の販売強化

# 経営戦略（米穀事業（国内））の構造改革②

## ●コストの削減による競争力強化

### ■自社精米工場の改革

- 全工場を対象に機能の選択と集中を図る
- 最新鋭の機器による省力化と自動化を推進
- 省エネによる環境配慮型工場化への取り組み

### ■産地精米活用による効率化

- 配送効率やコスト等を比較し最適な製造先を選択

生産効率の向上



アイテムの集約による製造コスト削減  
精米での輸送による物流コスト削減

# 経営戦略（米穀事業（国内））の構造改革③

## ●提案営業実践の強化

### ■新規取引先開拓の強化

- ▶ 家庭用・業務用のそれぞれのニーズに対応した商品提案

### ■環境対応（SDGs）の取り組み推進

- ▶ プラスチック使用量を削減したエコ米袋のシリーズ化検討
- ▶ 計画精米によるロスや日切れ米の抑制、エネルギーの削減
  - 賞味期限の長い「長鮮度米®」の拡販
  - 精米年月日から精米時期（旬）の表示に変更



紙を含む米袋でプラスチックを削減した「京都府産コシヒカリ 2kg」



< 変更後の印字例 >





# 経営戦略（新規事業・新商品開発の本格化①）

---

## ●海外市場における取組み

### ■各国における事業展開

- 行動制限の状況に応じて既存ビジネスと日本米販売回復に注力

### ■ベトナムでの生産・集荷体制強化

- ジャポニカ米の品質の向上と第三国輸出回復
- 日本の製造技術による更なる品質向上と国際規格への対応
- ベトナム国内における営業拠点の拡充と販売の強化

### ■新規事業案件の発掘

- 現地法人を軸としてアジア圏を中心に新規ビジネスの案件開拓

### ■中国市場における販売の強化

- 木徳（大連）貿易有限公司の連結子会社化

## 経営戦略（新規事業・新商品開発の本格化②）

### ●連携強化による開発の充実

#### ■産学連携や異業種提携の推進

▶東京農業大学と米タンパク質の機能性に関する共同研究を推進中

#### ■米粉や副産物（糠など）を使ってニーズに応える商品を開発

### ●インターネット通販サイト「**KOMETTS**」の開設

#### ■新たな販売チャネルとして2021年1月より運用開始

#### ■新鮮な消費者ニーズを汲み取り、新商品の開発と販売に活用

#### ■コンテンツの充実と広告企画で集客

# 経営戦略（飼料事業・鶏卵事業）

## ●飼料事業


- 国内仕入先・販売先の広域化とシェアの拡大
- 海外仕入先の選別と関係の強化
- 国内物流網の広域化と効率化

## ●鶏卵事業

- 食品加工メーカーと協力し高付加価値商品の開発と拡販



大手量販店で販売するブランド卵と親鳥を原料に使用したPB商品（鶏肉団子フライ・カステラ）



# 2021年12月期 連結業績予想

---



# 2021年12月期連結業績予想

単位：百万円

	2020年12月期 実績	2021年12月期 予想	増減額	増減率	2022年12月期 目標（参考）
売上高	107,596	105,000	△2,596	△2.4%	117,000
営業利益または 営業損失（△）	△42	420	+ 462	-	620
経常利益	81	460	+ 379	+ 467.9%	640
親会社株主に帰属する 当期純利益	62	370	+ 308	+ 496.8%	460

## 【主要増減要因】

売上高 ———— 減収：米穀の取引価格の下落

営業利益

経常利益

親会社株主に帰属する

当期純利益

増益：米穀事業の改革による収益改善と経費削減による利益確保

## 【中期三カ年2020年～2022年】

構造改革の集中期間とし、将来に向け大鉦を振るい、結果を出せる土台を作る



# 注意事項

---

本資料は、会社情報、経営計画、連結業績等に関する情報の提供を目的としたものであり、当社が発行する有価証券の投資勧誘を目的としたものではありません。

また、本資料のうち、業績予想等に記載されている各数値は、現在入手可能な情報による判断および仮定に基づき算定しており、判断や仮定に内在する不確定性および今後の事業運営や内外の状況変化等による変動可能性に照らし、実際の業績等と異なる可能性があります。

本資料は、2021年2月25日現在のデータに基づき作成しております。

## 【お問い合わせ先】

木徳神糧株式会社 社長室

TEL：03-3233-5125 Email:ir@kitoku-shinryo.co.jp

URL <https://www.kitoku-shinryo.co.jp/>